

平成23年度 事業計画

東日本大震災の復興が進む中、下呂温泉を取り巻く環境は相変わらず厳しく、先行き不安な要素が多々あります。その中で、国全体が自粛ムードからの脱却に動き始め、それに伴う経済活動の復興にあわせて、元気な日本、元気な下呂温泉を取り戻していきます。

下呂市においては、昨年度に引き続き、入湯税の財源を観光振興事業に特化して重点配分していただきながら、この厳しい状況を乗り越えるため、官民一体となって地域の活性化に向けた一層の取り組みを前倒しで実施していきます。

24年度の「ぎふ清流国体」開催に向けたプレイベント、ウェルネスツーリズムなどの施策をさらに進めていきます。JR東海では「Shupo」、「飛騨路キャンペーン」、「JR さわやかウォーキング」などの展開、旅行各社では地域体験型の旅行企画の需要にも常に対応できる態勢を整備していきます。

こうした中で、宿泊客の増加を目指した即効的な誘客対策を早急に進めていきます。特に誘致宣伝においては、関東地方をはじめ、東海北陸・関西・中国・九州方面に至るまでの広範囲にわたった活動を目指しています。多様化するニーズに応えるため、観光事業に精通した人材を育成し、観光コーディネーターとしての役割を担う人材を育成していきます。パブリシティでの情報発信、各地での観光物産展、キャラバンなど昨年以上に積極的に実施し、その効果を見極めながら、誘致宣伝事業を実施します。

「いでゆ夜市」をはじめ、新たな誘客イベントの取り組み、市や関係団体の催事との連携を進め、賑わいを創出する街歩きや朝市などの新たなニーズへの対応を行ないます。植樹・清掃活動など環境整備事業を行い、近隣観光地との連携を深め複数泊できる魅力ある観光地づくりを目指し、おもてなしの心の向上を図っていきます。また、高山本線強化促進、研修事業としての「車上セミナー」の実施、現地での誘致宣伝活動を行ないます。

今年度は下呂市観光協会連絡協議会の連携強化と広域的な誘致宣伝活動を行なうための、事業を展開していきます。市内各地域との一層の連携と行動、協働作業によりさらに魅力ある観光地づくり、誘客事業に努めます。

下呂市、下呂商工会、下呂温泉旅館協同組合、下呂市コンベンションビューロー、下呂サービスオペレーション（GSO）などとの連携を強化し、経済の活性化、雇用の拡大を図る事業を進め、下呂交流会館「アクティブ」を中心に、「MICE」によるコンベンションを活用して効果的な誘致活動を進めます。観光施設や関係各団体との意見交換や情報提供を進めながら、顧客ニーズへの対応やおもてなしの心を反映できる人材育成に努めます。

アクセスの向上、河川及び景観の整備、安全確保のための基盤整備、“ワイドビューひだ”の大阪直通便の増発、高山本線の有効的な活用、リニア中央新幹線の早期着工要望など関係機関へ働きかけていきます。

また、韓国との交流などから外国人誘客のための招致事業や観光展への参加など、インバウンド事業も積極的に進め、情報交換や学習機会の創出に努めます。

「ふるさと雇用再生特別基金事業」の助成を受け、「下呂温泉魅力アップ支援事業」として引き続き2名の職員を雇用し、「緊急雇用創出臨時特例基金事業」も合わせて活用して多様化する旅行需要に対応するための、営業活動や人材育成、雇用の創出を図ります。

下呂温泉年間宿泊者数が130万人に到達するための数値目標を定め、常に現状を見極めながら、地域の活性化を目指していきます。また、当協会も一般社団法人への移行手続きを進め、組織強化に努めます。関係各位のご厚情と会員の皆様のご協力をお願いします。